

2014年12月7日(日)  
13:30~18:00

## 公開講演会のご案内

立教大学(池袋キャンパス)  
7号館A棟1階  
7101教室

主催: 21世紀社会デザイン研究科  
社会デザイン研究所  
共催: 社会デザイン学会

### こどもと社会デザインⅡ-② 「幸福論から考える子どもの現在」

日本では80年代半ばぐらいまで人々の意識は「希望」に向かっていました。しかしそれ以降、次第に「不安」意識が社会全体に陰りを落とすようになりました。人々の意識の根底にある「不安」はトレンド化したと言ってもいいほど定着しています。少子化は、こうした不安トレンドの顕著な表れであり、また不安トレンドを増幅する要因ともなっています。

この講演会では、こどもを経済成長や社会保障の維持の手段にするのではなく、こどもがいることがすなわち人々と社会の幸福そのものであるような社会をいかにデザインするのか、そして、子どもを安心して生み育てられる社会の条件とは何か、さらには自分にこどもがいる、いないにかかわらず、すなわちこどもの問題を他人事することなく考えていくためのプロセスとはなにか、等を考えていきたいと思えます。こうした議論の積み重ねこそが、結果的には長期的な社会経済の発展を生み、社会全体の希望を見出す策につながるのではないのでしょうか。

具体的には、まず家族論の立場から広岡守穂氏に基調講演「むきあうこと、ささえること～人口問題と少子化対策をこえて」をいただき、次いで、対論「幸福論から考える子どもの現在(広岡氏+北山晴一氏)」を挟んで、パネル討論を行います。

パネル討論では、欧州で近代のこどもの概念がどのように形成されていったのか(長谷川まゆ帆氏)、また同性カップルにおけるこどもの存在(石坂わたる氏)、霊長類の行動発達学の視点から見たこどもについて(竹下秀子氏)等の、多角的な立場からご報告をいただき、幸福論を主軸にこどもの存在と社会について討論を進める予定です。

<講師> 広岡 守穂 (講演者・パネリスト) 中央大学教授  
長谷川 まゆ帆 (報告者・パネリスト) 東京大学教授  
石坂 わたる (報告者・パネリスト) 中野区議会議員  
竹下 秀子 (報告者・パネリスト) 滋賀県立大学教授  
北山 晴一 (対論) 大阪樟蔭女子大学教授、社会デザイン学会会長

<総合司会> 萩原 なつ子 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授  
対象: 21世紀社会デザイン研究科学生、本学学生教職員、一般市民  
問合せ先: 21世紀社会デザイン研究科委員長室 tel: 03-3985-2181  
(月~金 11:00~18:00)

受講無料 / 申込不要

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科は  
現代社会の求める「NPO/NGO」と「危機管理学」を学べる日本で初めての大学院です